

12/9 この検温機かわいいね 北央道路工業(株)からプレゼント

12月9日(水)北央道路工業株式会社(三澤朗代表取締役社長)は地域貢献の一環として新型コロナウイルス感染防止に役立ててほしいと、非接触型自動検温機能・消毒液噴射機能が付いたデジタルサイネージ(デジタル看板)を沼田認定こども園(土肥芳子園長)に寄贈しました。

園児達に親しみやすいよう特別なラッピングが施されており、土肥園長は「先生たちが一人一人検温するのは大変。子ども達が自ら検温したがるようなかわいいラッピングまでしていただいてありがたい」と感謝していました。



12/11 いつもありがとうございます マスクケースの寄贈を受けました

歌声サークル(市橋静代 代表)とウクレレサークル(菅原瑞枝 代表)から12月11日(金)マスクケース200枚の寄贈を受けました。

マスクケースはクリスマスイメージする赤と緑色の2種類で、サークルのメンバー25名で200枚のマスクケースを仕上げました。

市橋代表は「和風園クリスマス会で利用者の方と会うのが楽しみでしたが、今年はコロナ禍で開催されず残念でしたので、メンバー皆でプレゼントを考えました」と話していました。

マスクケースはこの他に、ほたる館のクリスマスバイキングでも配られました。



12/17 変わらぬおいしさに期待 雪なごり～瑞華～熟成開始

12月17日(木)雪の科学館で町のブランド酒「雪室熟成純米酒雪なごり瑞華」の長期熟成が始まりました。今年の貯蔵量は4000ℓで、熟成は90日間を予定しており、熟成後は生貯蔵酒と通常火入れ酒の2種類が販売される予定です。「沼田のお酒向上委員会」の小泉清彦会長は「とてもよい香りがする、今年のお酒も美味しくなる事を期待している」と話していました。



12/22 コロナ終息を願いアマビエ切手の寄贈

12月22日(火)北海道地方郵便局長会から、疫病を抑え込むといわれる妖怪アマビエをあしらったオリジナルフレーム切手セットの寄贈を受けました。

この日役場を訪れた富田茂将沼田郵便局長は「コロナウイルスが早く終息するようお願いを込めて贈ります」と横山町長に手渡しました。

この切手のフレームは、役場住民生活課窓口に展示しています。



12/22 災害協定に係る行動指針を受領

沼田町建設業協会（臼井有一会長）から「災害時における応急対策業務についての協定」に基づく、災害対策協力行動指針の提出がありました。

今回提出された指針には、災害時に町から協力要請を行った場合の基本的な行動基準が定められており、横山町長は「皆様には日頃から町の振興発展のためにお世話になっています。町民が安心安全に暮らせるよう願います」と述べました。

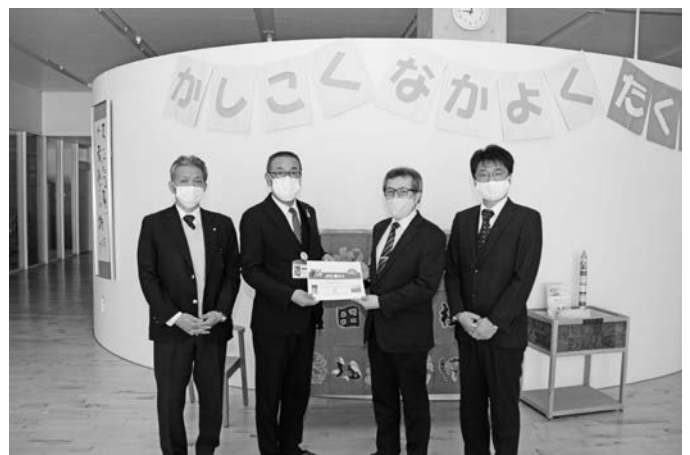


12/23 JRの乗り方ガイドブック

JR留萌本線利用促進策として、列車への乗り方等を解説したガイドブック「JRに乗ろう」の自宅用と持ち歩き用各200部が完成し、このほど沼田学園に届けられました。

町観光協会と町が共同で作成し、中には石狩沼田駅での切符の買い方や乗車方法、深川駅での切符の買い方などが丁寧に写真付きで記載されています。

ガイドブックを手渡した横山町長は「鉄道の魅力を子供たちに伝えてほしい」と述べ、受け取った米倉卓司学園長は「近隣のまちに出かける一番身近な交通機関として子供たちに利用してほしい」と話されました。



12/25 地域の見守りをお願いします 歳末特別警戒

犯罪や事故、火災などを未然に防ぐため防犯協会や消防団による歳末特別警戒が12月25日（金）始まりました。

観光情報プラザでは、防犯協会沼田支部の石田隆弘支部長と夜高パトロール隊9名が出動式を行い、深川警察署沼田警察庁舎の岡誠二所長と横山町長の激励を受けた後、青色回転灯を付けた隊員が防犯・交通安全街頭啓発パトロールを行いました。

また、12月31日（木）には観光情報プラザ駐車場にて沼田警察庁舎と夜高パトロール隊（橋田賢吾隊長）が協力して交通安全や防犯について啓発しました。



1/8 火災・災害の無いまちへ 沼田消防出初式

1月8日（金）令和3年深川地区消防組合沼田消防出初式（大原正己消防団長等主催）が、新型コロナウイルス感染予防に配慮し、例年実施している分列行進を中止するなどし規模を縮小して役場庁舎前で執り行われました。

式典で大原消防団長から「昨年は全国で自然災害が多発し、また組合管内でも火災が多く発生しているが、本年は無火災を願いたい。団員には地域住民の安全確保のためにご尽力願いたい」と整列した団員に力強く挨拶がありました。



1/12 たくさん遊んでね 松尾住設がボランティア

1月14日（火）小学校校庭で有限会社松尾住設（松尾孝次代表取締役）が、今シーズンも雪山作りのボランティア作業を行っていただきました。

大型の重機を使用して校舎横と学童保育所「こどもっくる」側の計2台雪山を制作いただき、校舎横の雪山は大きくて高さもあり、低学年生のスキー練習や児童の遊び場として使用させていただきます。



1/13 子ども達の安全のために 13 通学路の安全点検

子どもたちが安全に通学できるように1月13日（水）沼田町通学路安全推進会議（委員長三浦剛教育課長）による通学路の安全点検が行われました。道路管理を担当する国土交通省北海道開発局、札幌建設管理部、深川警察署、自治振興協議会、沼田町交通安全協会、防犯協会沼田支部、小中学校、建設課、教育委員会のメンバーが実際に歩きながら、交通安全や防犯上の観点で通学路の安全性についてチェックし、情報の共有をしました。



1/22 自然学校に着々と 22 小野寺亮さん、木育マイスターに認定

沼田町で初めての「木育（もくいく）マイスター」に地域おこし協力隊員の小野寺亮さんが認定されました。

木育マイスターとは北海道が認定する制度で、森のことや木工についての専門知識を普及させさせる専門家のことで、木育プログラムの企画立案や森のコーディネートをしていきます。

小野寺さんは研修の中で、生活の中での樹木の役割などを学んだほか、実際に子どもたちと森の中を歩き、森を観察しながら遊び方を考えていくことなどを学びました。

現在プログラム作りを行っている「ほろしんの森」を中心に活動をしている小野寺さんは「町民の皆さんに森で遊ぶ楽しさや木を使ったクラフトづくりの楽しさを伝えていきたい」と今後の展開について話していました。



1/26 通学途中、気を付けて 26 交通安全協会から反射マスクの寄贈

沼田町交通安全協会（坂本久和会長）から新型コロナウイルス感染予防のためマスクを着用している沼田学園の児童生徒に、車のライトが当たると反射するマスクが贈られました。

マスクは表面が反射する素材で作られており、暗い道を歩いていても車に存在を気付かせることができます。

贈呈式で坂本会長は「しばらくコロナ予防は続くと思うのでしっかりとマスクをして、薄暗い道での交通安全にも気を付けてほしい」と児童に声をかけていました。

